

員入退会について承認された。また、会費の自動引落しの普及についてさらに工夫してゆきたい旨の報告があった。

報告事項:

1. 平成15年度刊行物販売報告(資料-6)
小笠原理事から、資料により平成16年度刊行物販売状況および平成15年度刊行物刊行状況について報告があった。
2. 平成17年度科学研究費補助金の審査委員候補について(資料-7)
濱田副会長から、資料により日本学会議学術体制常置委員会(金澤委員長)から依頼のあった本件について、土木学会大学関係理事での協議結果および審査委員選出方式の変更等の説明があり、土木工学研連委員長に報告することで承認された。
2. 平成15年度会長特別委員会報告
西園総務部門幹事から、冊子(報告書)により標記特別委員会の名簿、目次の5項目(問題提起、先人たちの仕事への取り組み、現代技術者の気概について、土木技術者の気概の高揚を目指して、むすび)に基づき、土木技術者の仕事に対する意識、気概の変化から一般社

会とのコミュニケーション機能強化等概要説明があった。

また、会長からこの報告書を総会で配布いたしたい旨説明があった。

3. その他・スケジュール等
 - (1) 第90回通常総会
日時:平成16年5月28日(金)
場所:ホテルメトロポリタンエドモント
 - (2) 臨時理事会
日時:平成16年5月28日(金)
場所:ホテルメトロポリタンエドモント
 - (3) 平成16年度第1回理事会
日時:平成16年6月18日(金) 15:00~17:00
場所:土木学会AB会議室
 - ・正副会長会議
日時:平成16年6月18日(金) 13:30~14:30
 - ・新旧懇談会
日時:平成16年6月18日(金) 17:00~18:30
- 附:平成16年度 理事会等会議一覧が事務局から配布された。

見て 聞いて 土木の動き

明石海峡大橋ブリッジワールドの開催

本州四国連絡橋公団では、本四道路の広報活動、架橋技術に対する関心の醸成および利用促進活動の一環として、世界最長の吊橋・明石海峡大橋を体験していただく有料の「明石海峡大橋ブリッジワールド」を試行的に開始した。

今年度は8月5日~11月28日までの木曜日~日曜日および祝日に実施する。料金は実費相当額で1人あたり2,100円、ただし中学生は半額の1,050円である。今回の試行結果を踏まえ、来年度以降の実施方法を検討する予定である。

ブリッジワールドは、明石海峡大橋の神戸側アンカレイジの横にある「橋の科学館」に集合していただき、大橋の概要説明の後、橋桁の中にある点検管理路を約1km歩いて神戸側主塔まで行き、主塔の中にあるエレベーターで海面上約300mの塔頂に上

がり、360度の大迫力パノラマを体験するものである。帰りには、橋桁内にある兵庫県立舞子公園の遊歩道「舞子海上プロムナード」で休憩し、橋の科学館に戻る約2時間の見学コースである。見学中は専属ガイドが橋の説明をし、参加者には氏名・参加日・塔頂順位が記入された認定証や塔頂での記念写真がプレゼントされる。

見学コースは一般の方が入れない場所なので、不特定多数の方を案内することができず、最大28名を1班とし、ガイド2~3名で案内する。橋桁内の点検管理路は幅員4mあるが、床が鉄の格子状になっており海面が見える。参加者条件は、中学生以上、2km以上の歩行と階段の昇降ができる方、高所・閉所恐怖症でない方で、実施は午前1回・午後1回の1日約50名となる。申し込みは先着順で受け付けており、インターネットまたはFAXをお願いします。詳しい内容は、本四公団のホームページまたは橋の科学館のホームページを見ていただくか、橋の科学館(TEL 078-784-3396)にお問い合わせしてください。

(本州四国連絡橋公団・佃 長次)

第6回国際サマースイムシンポジウム 開催

7月31日(土)に埼玉大学において、第6回国際サマースイムシンポジウムが土木学会国際委員会(委員長:草柳俊二高知工科大学教授)の主催で開催された。このシンポジウムは土木学会の国際活動の一環として、英語での研究成果の発表の機会を設けることにより、日本に滞在中の留学生・エンジニアを中心に、国際交流と相互理解を深める目的で企画されたものである。1999年から開催され、6回目となる今回は144名の参加者



写真 塔頂からの大迫力パノラマ

(外国人学生・エンジニア 84 名, 日本人学生・エンジニア 60 名) を得て, 7 部門・90 件の研究発表と基調講演, ならびに懇親会が行われた。今回のシンポジウムは, 土木学会学術交流基金の助成を受けて実施された。

シンポジウム当日は, 午前・午後合わせて計 14 の一般講演セッションと 2 題の基調講演が行われた。基調講演では, まず海外からの招待講演として, 台湾 Sinotech Engineering Consultants の張吉佐博士による “ Tunneling in loosely cemented sand layer/stiff clay - Lantan Tunnel ” と題した講演が行われ, 台湾高速鉄道建設プロジェクトの一端が紹介された。続いて, 草柳高知工科大学教授による講演 “ Looking again at the mission of civil engineering and civil engineers in Japan ” では, 今後の土木技術者のあり方などについての講演と活発な議論が行われた。一般講演での発表は, 日本滞在中の留学生のものがその多くを占めたが, 海外からの参加者の講演も複数あり, また, 例年より日本人の発表も多く, 参加者相互間の有意義な情報交換ができたとの声が聞かれた。

最後に参加者が一堂に会し懇親会が催され, その中で優秀発表講演者(受賞者は下記のとおり)に賞状と記念品が授与された。懇親会での参加者間の活発な交流によって, シンポジウムの主目的である国際交流と相互理解はさらに促進された。

優秀発表講演者 15 名(敬称略)

Ryosuke Tanino (埼玉大学) / Dionysius M. Siringoringo (東京大学) / Rabin Tuladhar (埼玉大学) / Muhammad Waheed Sarwar (東京大学) / Phung Dang Hieu (埼玉大学) / Mahadevan Pathmathevan (東京大学) / Manuel Builes (東京大学) / Katsuyuki Ichiba (埼玉大学) / Kali Prasad Nepal (東京工業大学) / Tuenjai Fukuda (中央大学) / Kamal Babu Adhikary (埼玉大学) / Ha Minh (埼玉大学) / Bilal Bakht (埼玉大学) / Sunethra Kanthi Gunathilake (University of Peradeniya, Sri Lanka)

(国際委員会留学生分科会 第6回サマーシンポジウム
組織委員会委員長 松本泰尚(埼玉大学))

「風をおこそう!」打ち水大作戦実施される

さる 8 月 18 日から 25 日にかけて, 全国各地で「打ち水大作戦」が実施された。これはヒートアイランド対策等の一環として, 市民, NPO, 企業, 行政等, 多様な主体が連携して打ち水を行う催し物である。主催は市民団体などが連携して組織した「打ち水大作戦本部」で, 日本水フォーラムなどの NPO 法人等や国土交通省荒川下流河川事務所等が参加団体となり, 民間企業の協賛・協力, 国土交通省, 東京都, 東京商工会議所等の後援を得て開催された。この催しは, 2003 年 8 月に東京で実施された「大江戸打ち水大作戦」の拡大版とも言うべきもので, 昨年の実績を踏まえた上で, さらに期間延伸や全国への展開を図るなど, 打ち水の拡大実施を図ったものである。

打ち水イベントは期間中, 東京, 埼玉, 神奈川, 愛知, 長野, 石川, 福井, 大阪, 福岡, 佐賀などの各地で, 小学校や商店街, 公園や広場など, さまざまな場所で催された。さらに, 国内にとどまらず, ストックホルムで開催された水シンポジウム会場前でも実施され, 海外にもアピールした。打ち水大作戦本部では, この期間中の参加者数は, 東京 23 区で約 32 ~ 87 万人, 全国では約 329 ~ 837 万人にも上り, 打ち水の結果, 都内4箇所のイベント会場の結果の平均値で約 0.9 度の温度低減が見られたとしている。

この催しはテレビや新聞など, マスコミにも多く取り上げられ, 催し自体が盛況となっただけでなく, 日本全国で広く地球温暖化問題を考えるひとつの契機となった。打ち水大作戦本部では来年も打ち水を実施する意向とのことで, より一層, 盛況に開催されることが期待される。詳しくは打ち水大作戦ホームページ (<http://www.uchimizu.jp>) を参照されたい。



写真-1 打ち水の様子



写真-2 ストックホルムでの打ち水

(文責 編集委員 新谷康之)

[正誤表]

学会誌 9 月号に下記の誤植がありましたのでお詫びして訂正いたします。

	正	誤
9-08頁	土居則夫	土井則夫
9-15頁 参考文献8	Vol.87	Vol.83